

地水火風

牧野 恒一

先月に引き続き、浦安市における液状化被害と自主防災活動の状況について報告する。

で並ぶ必要はなく、水の補充にも余裕で対応できた。

急ピッチで進んだため、この程度で済んだが、首都圏直下の地震ではこうはいかないだろう。首都圏直下の地震に備えて、水の備蓄にはいっそう励む必要があると感じている人は当団地

庭や、乳幼児がいるのにミルクの買い置きをしていなかった家庭などは大変だったようだ。

「飢えと闘つ」という惨めな思いをしなくても済むようにするためには、各家庭で食料を相当量備蓄しておくことは不可欠だ。特に、子供のいる家庭は、震と液状化でガスの供給

（いへり）気象庁が「とりえず関係ないようだ」と発表しても「東海地震の前兆ではないか」との懸念が拭えない。

「水の備蓄」

首都圏直下の地震が起されば、当市は液状化で水道管がスタスタになることは予想されていたため、我が家では、水は大量に備蓄していた。

行ったようだが閉店して手に入らず、後日開店しても水のペットボトルは殆ど手に入らなかったようだ。結局、次の日から市が手配した給水車のところに行つて水をも

でも3分の2くらいで、その量もあまり多くなかったようだ。

意識して備蓄しておく必要があるだろう。

途絶が数ヶ月は続くということが予想されたため、もなることになった。

3月11日以降、日本列島の地殻構造は、すつかり活動モードに移行したと考えなければならぬ。

液状化被害と自主防災活動の体験（その3）

2リットルのペットボトルに水道水を入れて密栓し、暗いところに保管しておけば、1年は薬に保つ。今回、生で飲んでみたが、全く大丈夫だった。備蓄量は、夫婦二人で数十本以上だったが、これだけ備蓄してあると、あせつて給水車のところ

もあつたようだ。水をもらいに行くのにポリ缶がないと大変だ、という話は阪神・淡路大震災の体験記では常識なのだが、ポリ缶の準備しておら

隣の各市で水道管が破損したところが少なかったため、自衛隊や近隣からの応援の給水車が多数確保でき、破損箇所の工事も

賞味期限を見ながら、備蓄しておいた。結局、計て良かったのは、便袋と消臭剤のセットだ。大便を水洗トイレに流すことを禁止したため、大便はポリ袋に入れてペラペラ

「そろそろ本気で備蓄を再開しないと」

本稿執筆中（8月2日 前後）にも、各地で大きな地震が続いている。特に駿河湾沖の地震は、

「食料の備蓄」

食料についても、我が家の場合一月くらいなら外部補給なしで何とか暮らせるように準備していたので余裕で生活できた

「食料の備蓄」

「食料の備蓄」

「食料の備蓄」

（以下、次号）

「食料の備蓄」